

かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第3号
令和元年6月28日
校長 栗本 和明

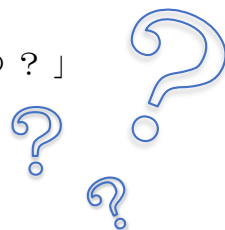
『?→!』で 広がる世界

北京日本人学校 教頭 小川裕子

北京に来て約3か月、毎日いろいろなところで新しい人、物、出来事などとの出会いがあります。出会いがあればあるほど、私の頭にはたくさんの『?』が浮かびます。

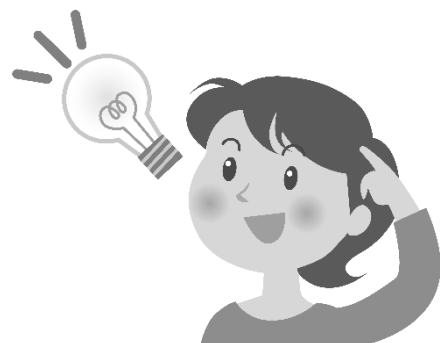
- スーパーのレジで…「なぜ、ニンジンだけ売ってくれないの?」
- 食堂で…「水が欲しかったのに、お湯が来た。なぜ?」
- タクシーで…「なんとはいいいの? 困った」

他にもいろいろあります。



なぜ、どうして、分からない、知らない、困った、不思議、納得できないなど『?』が浮かぶ原因は様々です。日本では何も考えずにできていたことができず、悔しい思いや悲しい思いをすることもあります。しかし、『?』について努力して調べたり、勉強したりした結果、『?』が『!』(なるほど、こういうことか、分かった)に変わったときには何とも言えない清々しい気持ちになります。

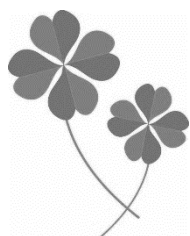
不思議なもので、『?→!』をたくさん経験すると「これはどうかな」と次の『?』を自分で探したくなります。また、分かったことを誰かに伝えて相手が『!』になるのを見たくなくなります。日本から来たばかりの4月よりも視野が広がり、気になることが増え、もっと多くのことを知りたくなっています。



この『?→!』はJSB生の皆さんがいろいろなことを身に付けていくうえでも大切だと思います。教員は授業に向かう時、その授業で何を習得してほしいかというねらいを念頭において、そのねらいに向け、皆さんが多くの疑問に出会い、自ら考え、解決に向い、納得に至るといふ学びのプロセスを意識し、たくさんの『!』(わかる・できる)が生まれるような指導を心がけています。

『?』(課題や疑問)に出会ったときにその先の『!』のことを思いワクワクしながらたくさん困り、悩み、チャレンジすることができる力を身に付けてほしいと思います。間違えてほしくないのは、ただ答えを教えてもらえばいいのではないということです。『?』にどう向き合ったのか、どう考えたのか、そしてどうしたのかという「→」の部分のプロセスが大切なのです。

『?→!』のプロセスの積み重ねは皆さんの力となり、より高みへ、より広い世界へ踏み出す時に必ず役に立ちます。勉強でも、そのほかの場面でも自ら進んで次の『?』に出会おうとする、そんな探求心溢れるJSB生であってほしいと期待しています。



「やさいをそだてよう」

小学部 2 年生



「先生、ミニトマトの実の色が変わってきたよ！」

朝、前庭にはこんな声が響きます。2年生の生活科では、野菜を育てる活動を通して様々なことを学ぶため、子どもたちはミニトマト、ナス、オクラの中から自分で育てる野菜を決め、一人一鉢に植えました。また、生活科園には、他にもスイートコーンやサツマイモ、きゅうり、スイカが植えてあります。毎朝学校に来ると、子どもたちは丁寧に水やりをします。生活科の授業では、成長の様子の記録も継続的に行っています。「先生、ミニトマトの実の色が変わってきたよ!」、「見て!ナス、でか!!」などという声が聞かれ、意欲的に野菜の世話や記録をしています。中には、育て方を人に聞いたり、教科書で調べたりする子もいます。

野菜を上手に育てるには、さまざまな工夫や苦労があります。子どもたちには、さまざまな体験を通して、多くの学びを得てほしいと願っています。

「修学旅行を終えて」

中学部 2 年生

僕が、今回の修学旅行で学んだことは「中国の文化と歴史」についてです。日本ではできない唐三彩絵付け体験や武術学校との交流といった貴重な経験ができ、とても充実した時間を過ごすことができました。特に印象に残っていることは、竜門石窟で美しい彫刻物を最高の仲間と見ることができたことです。3泊4日という短い旅でしたが、時の流れを忘れるくらいあっという間に終わりました。

また、修学旅行でたくさんの仲間と協力する事でクラス全体の団結力が高まりました。僕はそこが一番大きく成長できたところだと思います。修学旅行で得られた団結力と固い絆をこれから先も活かしていきたいです。



〈修学旅行実行委員長 清水田陸さんの振り返りより〉

清水田くんの言うようにあっという間に過ぎ去ってしまった4日間。しかし、文字通り「一生の思い出」と呼べる記憶に深く刻まれた時間です。ホテルでの友達とおしゃべり、圧倒された大きな仏像、武術学校の生徒と戦った腕相撲…。これからずっとずっと先、大人になった時でも鮮明に思い返すことのできる大切な思い出であり続けるはずです。

「親子読書週間を終えて」

学習部

「家読(うちどく)」という言葉をご存じでしょうか。「家庭読書」の略語で、家族で本を読むことを通じて、読書の習慣をつけることだけでなく、家族間のコミュニケーションを増やすことを目的にしている運動です。

親子読書週間中は、「家読」の大切さを感じる機会が多々ありました。家族と何を読んだか楽しげに話す子や、さっそくおすすめされた本を借りに行く子の姿が数多く見られ、子どもたちが家族で読書をすることを楽しみにしている様子が伝わってきました。

北京日本人学校の図書室にはまだまだ沢山の本があります。親子読書週間は終わってしまいましたが、これを機にご家庭でもコミュニケーションの一環として、「家読」を大切にしていただけたらと思います。ご協力いただきありがとうございました。



ただいま何人?

小学部 令和元年6月28日現在

小学部			令和元年6月28日現在				
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	9	8	17	4-1	7	12	19
1-2	9	9	18	4-2	9	11	20
1-3	9	8	17	5-1	17	9	26
2-1	11	10	21	5-2	15	11	26
2-2	11	12	23	6-1	10	6	16
3-1	9	10	19	6-2	10	6	16
3-2	8	11	19	小総計	134	123	257

中学部							
1-1	8	7	15	3-1	14	9	23
1-2	8	7	15	中総計	39	35	74
2-1	9	12	21	総合計	173	158	331